

明治天皇

第二百二十二代天皇

【ご誕生】

嘉永五年十一月三日

【ご称号】

祐宮(さちのみや)

【お印】

永(えい)

【ご陵所】

伏見桃山陵

今月の祭日

明治天皇例祭 (三十日)

宮中三殿のうち皇霊殿でお祭りが行われ、天皇陛下、皇后陛下、皇太子・同妃両殿下、皇族方が拝礼されます。伏見桃山陵においてもお祭りが行われます。

神道知識への誘ひ「**斎田点定の儀**」

大嘗祭に新穀をたてまつる神聖な田のことを「斎田」といい、全国から選定された二箇所<sup>ふたか所</sup>に設けられ、それぞれ「悠紀田」「主基田」と呼ばれます。その選定の儀「斎田点定の儀」は、宮中三殿の神殿の前庭において古代のままの亀卜<sup>きまぐら</sup>の法<sup>り</sup>【亀の甲を波々<sup>はは</sup>迦木<sup>かき</sup>に移した斎火<sup>いみび</sup>で焚き、その甲の亀裂<sup>かみひび</sup>によって悠紀・主基両地方を卜定<sup>ぼくじやう</sup>する方法】により神意を伺い斎田を決定します。

悠紀国と主基国

大嘗祭は、天皇陛下が即位後初めて新穀を皇祖・天神地祇<sup>てんじんちぎ</sup>に供えられ、親<sup>おや</sup>も召し上がり国家国民の安寧と五穀豊穰<sup>ごこくほうじやう</sup>などを感謝し祈念される儀式です。この大嘗祭において、新穀を奉る地方を悠紀国と主基国<sup>しゅきこく</sup>と言い、「悠紀」とは「最も神聖で清浄である」、「主基」とは「次」という意味があります。現在では新潟、長野、静岡の線で、国内を東西に二分して、その三県を含む東側を「悠紀の地方」、それより西側を「主基の地方」と定め、亀卜により

それぞれの都道府県が卜定されます。その後、卜定結果を宮内庁長官が天皇陛下に上奏して御裁可<sup>ごさいか</sup>を仰ぎ、悠紀・主基両地方の勅定<sup>ていじやう</sup>が下ります。このようにして定められた悠紀・主基両斎田では、祓式の後、御鍬入れ式、播種式等が行われ、六月頃には御田植式<sup>ごでんち</sup>が斎行され、以降十月まで、それぞれの地方の人々は、来るべき大嘗祭にたてまつるべき新穀を、数々の農耕儀礼を齎<sup>あそ</sup>しつつ、丹精をこめて稲作にご奉仕します。

白雲のよそに求むな  
世の人のまことの道ぞ  
しきしまの道  
明治天皇

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

